

## 地域資源を活用した子ども 参加型環境教育プログラム

財団法人キープ協会 増田 直広

### 1 はじめに

八ヶ岳南麓に位置する清里高原には様々な地域資源が存在している。森や牧草地・溪谷に代表される自然資源ばかりでなく、文化資源や人的資源も豊富であり、この地域資源を活用すれば清里地域独自の環境教育を展開し得る。

実践テーマである「地域資源を活用した子ども参加型環境教育プログラム」は2年間で行うものであるが、1年目の2002年度は本格実践の2年目に向けて、(1)清里地域における地域資源の再調査、(2)プログラム運営の体制作り、(3)「清里子ども自然クラブ」の発足の3つをねらいとして実践を行った。

### 2 活動内容

#### (1) 清里地域における地域資源の再調査

先述の通り、清里地域には森や溪谷に代表される自然資源、開拓の歴史に代表される文化資源、さらにそれらの資源を支える人々、つまり人的資源が豊富であり、それらの資源を活用することにより再確認できた。

また、10年程前まで行われていた地域における環境教育活動「清里子ども自然クラブ」の実施者と連携を取り、本クラブを再スタートするための検討を行った。

#### (2) プログラム運営の体制作り

「清里子ども自然クラブ」を再スタートすることを目指して、子どもの保護者にヒアリングを行い、どんな活動を希望するか、またどんな活動が展開できるか検討した。

また本実践に関心を持つ大人へ協力要請を行い、希望者をサポーターとして登録した。子どもを持つ人だけでなく、子どものいない人、子どもが既に独立している人からも支援をいただけることとなった。

さらに「清里子ども自然クラブ」準備会を作り、

運営体制、プログラム内容などを検討した。地域資源の再調査を行っていたため、比較的スムーズに体制作りを進めることができた。

#### (3) 「清里子ども自然クラブ」の発足

新聞折込、サポーターなどを通して清里地域への広報を行い、活動を周知するために「はじめますよ!の集い」を2回行い、招待プログラムとして雪を使ったアイスクリーム作りを行った(延べ80人が参加)。

上記集いでクラブ登録者を募った結果、2003年4月の段階で合計約80人の子どもとサポーターの登録状況となった(今後も登録を受け付けていく)。予想以上の登録数に驚くと共に地域における環境教育の必要性を感じた。

2003年度に入ってから、クラブの通信を発行し、月に1回のプログラム、そして月に1回のサポーターの集いを実施し、クラブの活動が本格的にスタートした。

### 3 結果・今後の課題・展望

当初の予定以上に地域資源の再調査およびプログラム運営の体制作り時間に時間をかけることになったが、その分今後の活動をスムーズに行うための環境作りを行うことができた。今後は再調査した地域資源をクラブの活動に取り入れて行きたい。

また、本実践を通して、地域における環境教育へのニーズの高さを確認することができた。地域社会が変化するに伴い、活動が縮小していったクラブの必要性が再び高まっていると言えるだろう。環境教育に関心を持つ保護者が増えていることも地域にはプラスとなっていると言える。

さらに、本クラブは子どもだけの登録とせずに、保護者をサポーターと位置づけて登録しているが、月1回のプログラムとサポーターの集いのコーディネートはスムーズに行うこと、子どもが主体的に参加できるための環境・体制作りなどが今後の課題と言える。

2002年度の実践・研究を踏まえて、今後も本実践テーマを継続していく予定である。地域資源を活用し、清里地域独自の環境教育を展開できるように努力していきたい。